

## 5 鳥取県感染症発生動向調査情報 月報（抜粋）

（鳥取県感染症対策協議会情報解析部会）

# 鳥取県感染症発生動向調査情報(月報)

令和4年3月4日(金)  
鳥取県生活環境部衛生環境研究所

## 令和4年第1週から第4週までの患者報告の状況

### 1 報告の多い疾病(インフルエンザ定点29、小児科定点19、眼科定点5、基幹定点5からの報告数)

今回(1週～4週)4週 (R4.1.3～R4.1.30)	前回(49週～52週)4週 (R3.12.6～R4.1.2)	前々回(45週～48週)4週 (R3.11.8～R3.12.5)
1 感染性胃腸炎 (353) [↓ 27]	1 感染性胃腸炎 (380)	1 感染性胃腸炎 (421)
2 A群溶血性レンサ球菌咽頭炎 (177) [↓ 9]	2 手足口病 (210)	2 A群溶血性レンサ球菌咽頭炎 (193)
3 手足口病 (138) [↓ 72]	3 A群溶血性レンサ球菌咽頭炎 (186)	3 手足口病 (120)
4 咽頭結膜熱 (20) [↓ 4]	4 ヘルパンギーナ (46)	4 ヘルパンギーナ (104)
5 ヘルパンギーナ (17) [↓ 29]	5 水痘 (34)	5 水痘 (34)
6 その他 (37) [↓ 13]	6 その他 (50)	6 その他 (53)
(合計 742)	(合計 906)	(合計 925)

※[ ]内は前回との比較を表す。↑は増加したものの、↓は減少したものの、数値は増減の件数である。

### 2 前回との比較増減

全体の報告数は742件であり、18%(164件)の減となった。

減少した疾病	
ヘルパンギーナ	63%
手足口病	34%
感染性胃腸炎	7%
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	5%

### 3 コメント

- 新型コロナウイルス感染症は、オミクロン株を中心とした第6波に入っています。世代時間(ある患者が感染してから二次感染を起こすまでの時間)2.6日、潜伏期間2.9日(中央値)と短く、感染も急拡大しており、これまでの流行期に比べ非常に多くの感染事例が確認されています。小児の感染も多く見られ、高齢者の割合も増加しており、全年齢層で感染するおそれがあります。オミクロン株は比較的軽症とされていますが、高齢者が感染すると元々の疾患の増悪や環境の変化による体調悪化などがみられるケースがあります。ワクチン未接種(1,2回目)の成人では、症状が強く出る傾向にあり、高齢者では重篤になるケースもみられており、ワクチン接種を受けることが大切です。
- また、オミクロン株以外にも、県内ではデルタ株も依然として確認されています。引き続き、県内、県外往来を問わず、マスク着用、手洗い、換気など基本的な感染対策を継続して実施するとともに、少しでも体調が悪い時は休暇を取り、かかりつけ医など医療機関にご相談ください。
- A群溶血性レンサ球菌咽頭炎は、東部地区において患者報告が続いており、注意が必要です。
- 手足口病及び感染性胃腸炎は減少傾向です。
- 昨シーズンに続き、今冬もインフルエンザの報告はほとんどありません。

# 鳥取県感染症発生動向調査情報(月報)

令和4年3月18日(金)  
鳥取県生活環境部衛生環境研究所

## 令和4年第5週から第8週までの患者報告の状況

### 1 報告の多い疾病(インフルエンザ定点29、小児科定点19、眼科定点5、基幹定点5からの報告数)

今回(5週～8週)4週 (R4.1.31～R4.2.27)	前回(1週～4週)4週 (R4.1.3～R4.1.30)	前々回(49週～52週)4週 (R3.12.6～R4.1.2)
1 感染性胃腸炎 (264) [↓ 89]	1 感染性胃腸炎 (353)	1 感染性胃腸炎 (380)
2 A群溶血性レンサ球菌咽頭炎 (194) [↑ 17]	2 A群溶血性レンサ球菌咽頭炎 (177)	2 手足口病 (210)
3 手足口病 (70) [↓ 68]	3 手足口病 (138)	3 A群溶血性レンサ球菌咽頭炎 (186)
4 咽頭結膜熱 (29) [↑ 9]	4 咽頭結膜熱 (20)	4 ヘルパンギーナ (46)
5 突発性発疹 (20) [↑ 5]	5 ヘルパンギーナ (17)	5 水痘 (34)
6 その他 (16) [↓ 21]	6 その他 (37)	6 その他 (50)
(合計 593)	(合計 742)	(合計 906)

※[ ]内は前回との比較を表す。↑は増加したものの、↓は減少したものの、数値は増減の件数である。

### 2 前回との比較増減

全体の報告数は593件であり、20%(149件)の減となった。

増加した疾病	減少した疾病
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎 10%	手足口病 49%
	感染性胃腸炎 25%

### 3 コメント

- ・新型コロナウイルス感染症は、1月下旬と2月下旬にピークを示す二峰性の感染拡大が生じました。感染者数は減少傾向を示していますが、BA.1系統よりも感染性が高いBA.2系統への置き換わりが進むことへの懸念もあり、注意が必要です。  
引き続き、県内、県外往来を問わず、マスク着用、手洗い、換気など基本的な感染対策を継続して実施するとともに、少しでも体調が悪い時は休暇を取り、かかりつけ医など医療機関にご相談ください。  
なお、県内においては、主にオミクロン株(疑いを含む)の流行が見られますが、2月中旬まではデルタ株(疑いを含む)も確認されています。
- ・感染性胃腸炎は減少傾向ですが、最も報告数が多く注意が必要です。
- ・A群溶血性レンサ球菌咽頭炎は、東部地区において患者報告が続いており、注意が必要です。

# 鳥取県感染症発生動向調査情報(月報)

令和4年4月15日(金)  
鳥取県生活環境部衛生環境研究所

## 令和4年第9週から第13週までの患者報告の状況

### 1 報告の多い疾病(インフルエンザ定点29、小児科定点19、眼科定点5、基幹定点5からの報告数)

今回(9週～13週)5週 (R4.2.28～R4.4.3)	前回(4週～8週)5週 (R4.1.24～R4.2.27)	前々回(51週～3週)5週 (R3.12.20～R4.1.23)
1 感染性胃腸炎 (319) [↓ 35]	1 感染性胃腸炎 (354)	1 感染性胃腸炎 (410)
2 A群溶血性レンサ球菌咽頭炎 (168) [↓ 83]	2 A群溶血性レンサ球菌咽頭炎 (251)	2 A群溶血性レンサ球菌咽頭炎 (235)
3 突発性発疹 (29) [↑ 6]	3 手足口病 (96)	3 手足口病 (186)
4 手足口病 (22) [↓ 74]	4 咽頭結膜熱 (33)	4 咽頭結膜熱 (32)
5 咽頭結膜熱 (11) [↓ 22]	5 突発性発疹 (23)	5 ヘルパンギーナ (27)
6 その他 (9) [↓ 12]	6 その他 (21)	6 その他 (52)
(合計 558)	(合計 778)	(合計 942)

※[ ]内は前回との比較を表す。↑は増加したもの、↓は減少したものの、数値は増減の件数である。

### 2 前回との比較増減

全体の報告数は558件であり、28%(220件)の減となった。

減少した疾病	
手足口病	77%
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	33%
感染性胃腸炎	10%

### 3 コメント

- 新型コロナウイルス感染症は、2月中旬のピーク以降高止まりの状態では推移していましたが、4月中旬には増加の兆しがみられ、第7波が懸念される状況です。また、県内でもBA.2系統疑い例が確認され、更なる感染拡大に注意が必要です。  
引き続き、マスク着用、手洗い、換気など基本的な感染対策を継続して実施するとともに、少しでも体調が悪い時は休暇を取り、かかりつけ医など医療機関にご相談ください。
- 感染性胃腸炎は減少傾向ですが、最も報告数が多く、保育所での集団発生も確認されており、注意が必要です。
- 昨シーズンに続き、今冬もインフルエンザの報告はほとんどありませんでした。

# 鳥取県感染症発生動向調査情報(月報)

令和4年5月20日(金)  
鳥取県生活環境部衛生環境研究所

## 令和4年第14週から第17週までの患者報告の状況

### 1 報告の多い疾病(インフルエンザ定点29、小児科定点19、眼科定点5、基幹定点5からの報告数)

今回(14週～17週)4週 (R4.4.4～R4.5.1)	前回(10週～13週)4週 (R4.3.7～R4.4.3)	前々回(6週～9週)4週 (R4.2.7～R4.3.6)
1 感染性胃腸炎 (384) [↑ 133]	1 感染性胃腸炎 (251)	1 感染性胃腸炎 (258)
2 A群溶血性レンサ球菌咽頭炎 (123) [↓ 5]	2 A群溶血性レンサ球菌咽頭炎 (128)	2 A群溶血性レンサ球菌咽頭炎 (181)
3 突発性発疹 (32) [↑ 11]	3 突発性発疹 (21)	3 手足口病 (59)
4 手足口病 (10) [↓ 8]	4 手足口病 (18)	4 咽頭結膜熱 (23)
5 咽頭結膜熱 (9) [↑ 3]	5 咽頭結膜熱 (6)	5 突発性発疹 (22)
6 その他 (12) [↑ 8]	6 その他 (4)	6 その他 (12)
(合計 570)	(合計 428)	(合計 555)

※[ ]内は前回との比較を表す。↑は増加したものの、↓は減少したものの、数値は増減の件数である。

### 2 前回との比較増減

全体の報告数は570件であり、33%(142件)の増となった。

増加した疾病		減少した疾病	
感染性胃腸炎	53%	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	4%

### 3 コメント

- 新型コロナウイルス感染症は、3月に減少傾向を示したものの、4月は増加傾向となり、陽性者数の多い状態が続いています。GW期間中は一時的に減少するも、県外往来を起因として再び増加傾向となっており、依然として第7波が懸念される状況です。  
また、県内ではほとんどBA.2系統疑いへ置き換わりが進んでおり、更なる感染急拡大に注意が必要です。  
引き続き、マスク着用、手洗い、換気など基本的な感染対策を継続して実施するとともに、少しでも体調が悪い時は休暇を取り、かかりつけ医など医療機関にご相談ください。
- 感染性胃腸炎は増加傾向にあります。ノロウイルスを中心に集団発生も確認されており、注意が必要です。
- 西部地区において、例年よりも早い時期に日本紅斑熱が確認されています。野山等に入る時は、マダニに刺されないよう長袖、長ズボンなどの予防対策をとることが必要です。

# 鳥取県感染症発生動向調査情報(月報)

令和4年6月16日(木)  
鳥取県生活環境部衛生環境研究所

## 令和4年第18週から第21週までの患者報告の状況

### 1 報告の多い疾病(インフルエンザ定点29、小児科定点19、眼科定点5、基幹定点5からの報告数)

今回(18週～21週)4週 (R4.5.2～R4.5.29)	前回(14週～17週)4週 (R4.4.4～R4.5.1)	前々回(10週～13週)4週 (R4.3.7～R4.4.3)
1 感染性胃腸炎 (343) [↓ 41]	1 感染性胃腸炎 (384)	1 感染性胃腸炎 (251)
2 A群溶血性レンサ球菌咽頭炎 (113) [↓ 10]	2 A群溶血性レンサ球菌咽頭炎 (123)	2 A群溶血性レンサ球菌咽頭炎 (128)
3 突発性発疹 (27) [↓ 5]	3 突発性発疹 (32)	3 突発性発疹 (21)
4 咽頭結膜熱 (21) [↑ 12]	4 手足口病 (10)	4 手足口病 (18)
5 手足口病 (15) [↑ 5]	5 咽頭結膜熱 (9)	5 咽頭結膜熱 (6)
6 その他 (19) [↑ 7]	6 その他 (12)	6 その他 (4)
(合計 538)	(合計 570)	(合計 428)

※[ ]内は前回との比較を表す。↑は増加したものの、↓は減少したものの、数値は増減の件数である。

### 2 前回との比較増減

全体の報告数は538件であり、6%(32件)の減となった。

減少した疾病	
感染性胃腸炎	11%
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	8%

### 3 コメント

- ・新型コロナウイルス感染症は、GW明けの増加傾向から一転して、5月中旬以降は減少傾向を示していますが、学校や保育所、高齢者福祉施設等での集団感染もあり感染拡大に注意が必要です。  
引き続き、マスク着用、手洗い、換気など基本的な感染対策を継続して実施するとともに、少しでも体調が悪い時は休暇を取り、かかりつけ医など医療機関にご相談ください。
- ・感染性胃腸炎の感染者数が引き続き多い状況であり、注意が必要です。
- ・東部地区において、飼い猫の重症熱性血小板減少症候群が確認されました。また、西部地区では日本紅斑熱に続き、つつが虫病も確認されています。いずれも病原体を保有するダニに刺されることで感染します。野山等に入る時は、長袖、長ズボンの着用、ダニ忌避剤の使用などの予防対策をとることが必要です。

# 鳥取県感染症発生動向調査情報(月報)

令和4年7月26日(火)  
鳥取県生活環境部衛生環境研究所

## 令和4年第22週から第26週までの患者報告の状況

### 1 報告の多い疾病(インフルエンザ定点29、小児科定点19、眼科定点5、基幹定点5からの報告数)

今回(22週～26週)5週 (R4.5.30～R4.7.3)	前回(17週～21週)5週 (R4.4.25～R4.5.29)	前々回(12週～16週)5週 (R4.3.21～R4.4.24)
1 感染性胃腸炎 (425) [↓ 5]	1 感染性胃腸炎 (430)	1 感染性胃腸炎 (410)
2 A群溶血性レンサ球菌咽頭炎 (146) [↑ 16]	2 A群溶血性レンサ球菌咽頭炎 (130)	2 A群溶血性レンサ球菌咽頭炎 (159)
3 手足口病 (69) [↑ 51]	3 突発性発疹 (37)	3 突発性発疹 (32)
4 咽頭結膜熱 (54) [↑ 30]	4 咽頭結膜熱 (24)	4 手足口病 (18)
5 突発性発疹 (38) [↑ 1]	5 手足口病 (18)	5 咽頭結膜熱 (8)
6 その他 (46) [↑ 27]	6 その他 (19)	6 その他 (14)
(合計 778)	(合計 658)	(合計 641)

※[ ]内は前回との比較を表す。↑は増加したもの、↓は減少したものの、数値は増減の件数である。

### 2 前回との比較増減

全体の報告数は778件であり、18%(120件)の増となった。

増加した疾病		減少した疾病	
手足口病	283%	感染性胃腸炎	1%
咽頭結膜熱	125%		
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	12%		

### 3 コメント

- 新型コロナウイルス感染症は、6月中旬までは落ち着いた状況でしたが、従来のオミクロン株より感染力が強いとされる派生型BA.5系統が流入し、6月下旬からは一転して急激な増加がみられ第7波に入っています。これまでの流行期に比べ非常に多くの感染事例が確認されており、家庭、事業所や保育所などで換気不足や共用物品の消毒不徹底と思われる集団感染が多数発生しています。

人との距離が確保できない場面でのマスク着用や密を避けるなど基本的な感染防止対策の徹底だけでなく空気の流れを意識した換気や徹底した消毒を行い感染防止対策の強化を図るとともに、少しでも体調が悪い時は休暇を取り、かかりつけ医など医療機関にご相談ください。

- 引き続き日本紅斑熱などのダニ媒介感染症が確認されており、注意が必要です。農作業や野山等に入る時は、長袖、長ズボンの着用、ダニ忌避剤の使用などの予防対策をとることが必要です。

# 鳥取県感染症発生動向調査情報(月報)

令和4年8月31日(水)  
鳥取県生活環境部衛生環境研究所

## 令和4年第27週から第30週までの患者報告の状況

### 1 報告の多い疾病(インフルエンザ定点29、小児科定点19、眼科定点5、基幹定点5からの報告数)

今回(27週～30週)4週 (R4.7.4～R4.7.31)	前回(23週～26週)4週 (R4.6.6～R4.7.3)	前々回(19週～22週)4週 (R4.5.9～R4.6.5)
1 感染性胃腸炎 (272) [↓ 55]	1 感染性胃腸炎 (327)	1 感染性胃腸炎 (394)
2 手足口病 (80) [↑ 17]	2 A群溶血性レンサ球菌咽頭炎 (109)	2 A群溶血性レンサ球菌咽頭炎 (135)
3 A群溶血性レンサ球菌咽頭炎 (78) [↓ 31]	3 手足口病 (63)	3 突発性発疹 (35)
4 RSウイルス感染症 (75) [↑ 67]	4 咽頭結膜熱 (40)	4 咽頭結膜熱 (27)
5 ヘルパンギーナ (35) [↑ 25]	5 突発性発疹 (24)	5 手足口病 (17)
6 その他 (58) [↑ 22]	6 その他 (36)	6 その他 (28)
(合計 598)	(合計 599)	(合計 636)

※[ ]内は前回との比較を表す。↑は増加したもの、↓は減少したものの、数値は増減の件数である。

### 2 前回との比較増減

全体の報告数は598件であり、1件の減となった。

増加した疾病		減少した疾病	
RSウイルス感染症	838%	咽頭結膜熱	38%
手足口病	27%	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	28%
		感染性胃腸炎	17%

### 3 コメント

- ・新型コロナウイルス感染症は、7月初旬から右肩上がりで見られる感染者の増加がみられ、お盆期間を挟み県外往来を起因としてさらなる感染急拡大が起こり、夏休み期間が終わり、学校が再開されるなど新たな感染も懸念され、依然として予断を許さない状況が続いています。このままの感染状況が継続すれば、コロナ診療だけでなく、他の疾患や事故、ケガなどでも必要な医療が速やかに受けられないという医療の非常事態が差し迫っています。  
流行株は、BA.5系統に置き換わりました。これまでの流行期に比べ非常に多くの感染事例が確認されており、高齢者福祉施設や医療機関での集団感染も複数確認されています。  
引き続き人との距離が確保できない場面でのマスク着用、密を避ける、空気の流れを意識した換気や徹底した消毒を行い感染防止対策の強化を図るとともに、少しでも体調が悪い時は休暇を取り、かかりつけ医など医療機関にご相談ください。
- ・RSウイルス感染症は、西部地区で増加しており、注意が必要です。



# 鳥取県感染症発生動向調査情報(月報)

令和4年9月16日(金)  
鳥取県生活環境部衛生環境研究所

## 令和4年第31週から第34週までの患者報告の状況

### 1 報告の多い疾病(インフルエンザ定点29、小児科定点19、眼科定点5、基幹定点5からの報告数)

今回(31週～34週)4週 (R4.8.1～R4.8.28)	前回(27週～30週)4週 (R4.7.4～R4.7.31)	前々回(23週～26週)4週 (R4.6.6～R4.7.3)
1 感染性胃腸炎 (200) [↓ 72]	1 感染性胃腸炎 (272)	1 感染性胃腸炎 (327)
2 RSウイルス感染症 (137) [↑ 62]	2 手足口病 (80)	2 A群溶血性レンサ球菌咽頭炎 (109)
3 手足口病 (58) [↓ 22]	3 A群溶血性レンサ球菌咽頭炎 (78)	3 手足口病 (63)
4 A群溶血性レンサ球菌咽頭炎 (55) [↓ 23]	4 RSウイルス感染症 (75)	4 咽頭結膜熱 (40)
5 ヘルパンギーナ (44) [↑ 9]	5 ヘルパンギーナ (35)	5 突発性発疹 (24)
6 その他 (35) [↓ 23]	6 その他 (58)	6 その他 (36)
(合計 529)	(合計 598)	(合計 599)

※[ ]内は前回との比較を表す。↑は増加したもの、↓は減少したもの、数値は増減の件数である。

### 2 前回との比較増減

全体の報告数は529件であり、12%(69件)の減となった。

増加した疾病		減少した疾病	
RSウイルス感染症	83%	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	29%
ヘルパンギーナ	26%	手足口病	28%
		感染性胃腸炎	26%

### 3 コメント

- 新型コロナウイルス感染症は、7月以降右肩上がりが増加し、8月中旬頃にピークとなった後、8月下旬からは減少傾向に転じています。

依然として病床使用率が高い状況が続いており、注意が必要です。引き続き人との距離が確保できない場面でのマスク着用、密を避ける、空気の流れを意識した換気や徹底した消毒を行い感染防止対策の強化を図るとともに、少しでも体調が悪い時は休暇を取り、かかりつけ医など医療機関にご相談ください。

- RSウイルス感染症は、引き続き西部地区を中心に増加傾向であり、注意が必要です。

# 鳥取県感染症発生動向調査情報(月報)

令和4年10月14日(金)  
鳥取県生活環境部衛生環境研究所

## 令和4年第35週から第39週までの患者報告の状況

### 1 報告の多い疾病(インフルエンザ定点29、小児科定点19、眼科定点5、基幹定点5からの報告数)

今回(35週～39週)5週 (R4.8.29～R4.10.2)	前回(30週～34週)5週 (R4.7.25～R4.8.28)	前々回(25週～29週)5週 (R4.6.20～R4.7.24)
1 RSウイルス感染症(283)[↑111]	1 感染性胃腸炎 (254)	1 感染性胃腸炎 (371)
2 感染性胃腸炎 (191)[↓63]	2 RSウイルス感染症 (172)	2 手足口病 (104)
3 A群溶血性レンサ球菌咽頭炎(123)[↑48]	3 A群溶血性レンサ球菌咽頭炎(75)	3 A群溶血性レンサ球菌咽頭炎(94)
4 手足口病 (49)[↓25]	4 手足口病 (74)	4 RSウイルス感染症 (45)
5 ヘルパンギーナ (25)[↓28]	5 ヘルパンギーナ (53)	5 咽頭結膜熱 (36)
6 その他 (39)[↓10]	6 その他 (49)	5 ヘルパンギーナ (36)
(合計 710)	(合計 677)	7 その他 (42)
		(合計 728)

※[ ]内は前回との比較を表す。↑は増加したもの、↓は減少したもの、数値は増減の件数である。

### 2 前回との比較増減

全体の報告数は710件であり、5%(33件)の増となった。

増加した疾病		減少した疾病	
RSウイルス感染症	65%	ヘルパンギーナ	53%
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	64%	手足口病	34%
		感染性胃腸炎	25%

### 3 コメント

- ・新型コロナウイルス感染症は、8月中旬頃のピーク以降、減少傾向が続いていますが、水際対策の緩和や、全国旅行支援事業の開始など、国内外問わず人の流入が予測され、今冬はインフルエンザとの同時流行も懸念されています。  
引き続き人との距離が確保できない場面でのマスク着用、密を避ける、空気の流れを意識した換気、徹底した消毒やワクチン接種などを行い感染防止対策の強化を図るとともに、少しでも体調が悪い時は休暇を取り、かかりつけ医など医療機関にご相談ください。
- ・RSウイルス感染症は、全県で引き続き増加傾向であり、注意が必要です。
- ・臨床現場では、ヒトメタニューモウイルス感染症が比較的多く確認されており、注意が必要です。
- ・東部地区において、重症熱性血小板減少症候群並びに日本紅斑熱が確認されています。いずれも病原体を保有するダニに刺されることで感染します。野山等に入る時は、長袖、長ズボンの着用、ダニ忌避剤の使用などの予防対策をとることが必要です。

# 鳥取県感染症発生動向調査情報(月報)

令和4年11月30日(水)  
鳥取県生活環境部衛生環境研究所

## 令和4年第40週から第43週までの患者報告の状況

### 1 報告の多い疾病(インフルエンザ定点29、小児科定点19、眼科定点5、基幹定点5からの報告数)

今回(40週～43週)4週 (R4.10.3～R4.10.30)	前回(36週～39週)4週 (R4.9.5～R4.10.2)	前々回(32週～35週)4週 (R4.8.8～R4.9.4)
1 R S ウイルス感染症(278)[↑ 28]	1 R S ウイルス感染症 (250)	1 感染性胃腸炎 (176)
2 A群溶血性レンサ球菌咽頭炎 (140)[↑ 55]	2 感染性胃腸炎 (154)	2 R S ウイルス感染症 (133)
3 感染性胃腸炎 (139)[↓ 15]	3 A群溶血性レンサ球菌咽頭炎 (85)	3 A群溶血性レンサ球菌咽頭炎 (70)
4 突発性発疹 (19)[↑ 1]	4 手足口病 (40)	4 手足口病 (45)
5 手足口病 (12)[↓ 28]	5 突発性発疹 (18)	5 ヘルパンギーナ (33)
6 その他 (23)[↑ 9]	5 ヘルパンギーナ (18)	6 その他 (26)
(合計 611)	7 その他 (14)	(合計 483)
	(合計 579)	

※[ ]内は前回との比較を表す。↑は増加したもの、↓は減少したもの、数値は増減の件数である。

### 2 前回との比較増減

全体の報告数は611件であり、6%(32件)の増となった。

増加した疾病		減少した疾病	
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	65%	手足口病	70%
R S ウイルス感染症	11%	感染性胃腸炎	10%

### 3 コメント

- ・新型コロナウイルス感染症は、8月のピーク以降、減少傾向が続いていましたが、10月上旬から下げ止まり、11月に入り増加傾向が顕著となり、第8波に入ったものと考えられます。さらなる感染拡大が懸念されるだけでなく、今冬はインフルエンザとの同時流行も懸念されています。  
引き続き人との距離が確保できない場面でのマスク着用、密を避ける、空気の流れを意識した換気、徹底した消毒やワクチン接種などを行い感染防止対策の強化を図るとともに、少しでも体調が悪いときは休暇を取り、かかりつけ医など医療機関にご相談ください。
- ・お子さまの新型コロナウイルスワクチン接種については有効性と安全性にかかる国内のデータが集積され、日本小児科学会は発症予防、重症化予防等のメリットが副反応等のデメリットを大きく上回ると判断し、ワクチン接種を推奨しています。大切なお子さまの命と健康を守るため、ワクチン接種のご検討をお願いします。
- ・東部地区において、引き続き日本紅斑熱が確認されています。野山等に入るときは、長袖、長ズボンの着用、ダニ忌避剤の使用などの予防対策をとることが必要です。

# 鳥取県感染症発生動向調査情報(月報)

令和4年12月16日(金)  
鳥取県生活環境部衛生環境研究所

## 令和4年第44週から第47週までの患者報告の状況

### 1 報告の多い疾病(インフルエンザ定点29、小児科定点19、眼科定点5、基幹定点5からの報告数)

今回(44週～47週)4週 (R4.10.31～R4.11.27)	前回(40週～43週)4週 (R4.10.3～R4.10.30)	前々回(36週～39週)4週 (R4.9.5～R4.10.2)
1 感染性胃腸炎 (150) [↑ 11]	1 RSウイルス感染症 (278)	1 RSウイルス感染症 (250)
2 A群溶血性レンサ球菌咽頭炎 (103) [↓ 37]	2 A群溶血性レンサ球菌咽頭炎 (140)	2 感染性胃腸炎 (154)
3 RSウイルス感染症 (100) [↓ 178]	3 感染性胃腸炎 (139)	3 A群溶血性レンサ球菌咽頭炎 (85)
4 手足口病 (29) [↑ 17]	4 突発性発疹 (19)	4 手足口病 (40)
5 突発性発疹 (12) [↓ 7]	5 手足口病 (12)	5 突発性発疹 (18)
6 その他 (27) [↑ 4]	6 その他 (23)	5 ヘルパンギーナ (18)
(合計 421)	(合計 611)	7 その他 (14)
		(合計 579)

※[ ]内は前回との比較を表す。↑は増加したもの、↓は減少したもの、数値は増減の件数である。

### 2 前回との比較増減

全体の報告数は421件であり、31%(190件)の減となった。

増加した疾病		減少した疾病	
手足口病	142%	RSウイルス感染症	64%
感染性胃腸炎	8%	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	26%

### 3 コメント

- ・新型コロナウイルス感染症は、11月初旬から右肩上がりで見られる感染者の増加がみられ、感染拡大が続いています。複数のオミクロンの新規系統が競合しながら増加しており、年末年始も控え、さらなる感染拡大が懸念されています。  
引き続き人との距離が確保できない場面でのマスク着用、密を避ける、空気の流れを意識した換気、徹底した消毒やワクチン接種などを行い感染防止対策の強化を図るとともに、少しでも体調が悪いときは休暇を取り、かかりつけ医など医療機関にご相談ください。
- ・お子さまの新型コロナウイルスワクチン接種については有効性と安全性にかかる国内のデータが集積され、日本小児科学会は発症予防、重症化予防等のメリットが副反応等のデメリットを大きく上回ると判断し、ワクチン接種を推奨しています。大切なお子さまの命と健康を守るため、ワクチン接種のご検討をお願いします。
- ・インフルエンザや感染性胃腸炎といった冬に多く流行する感染症は少ない状況が続いています。インフルエンザは新型コロナとの同時流行も懸念され、注意が必要です。

# 鳥取県感染症発生動向調査情報(月報)

令和5年1月20日(金)  
鳥取県生活環境部衛生環境研究所

## 令和4年第48週から第52週までの患者報告の状況

### 1 報告の多い疾病(インフルエンザ定点29、小児科定点19、眼科定点5、基幹定点5からの報告数)

今回(48週～52週)5週 (R4.11.28～R5.1.1)	前回(43週～47週)5週 (R4.10.24～R4.11.27)	前々回(38週～42週)5週 (R4.9.19～R4.10.23)
1 感染性胃腸炎 (167) [↓ 16]	1 感染性胃腸炎 (183)	1 RSウイルス感染症 (374)
2 A群溶血性レンサ球菌咽頭炎 (114) [↓ 40]	2 A群溶血性レンサ球菌咽頭炎 (154)	2 感染性胃腸炎 (179)
3 手足口病 (39) [↑ 6]	3 RSウイルス感染症 (135)	3 A群溶血性レンサ球菌咽頭炎 (130)
4 RSウイルス感染症 (23) [↓ 112]	4 手足口病 (33)	4 突発性発疹 (29)
5 インフルエンザ (21) [↑ 21]	5 突発性発疹 (13)	5 手足口病 (23)
5 突発性発疹 (21) [↑ 8]	6 その他 (31)	6 その他 (34)
7 その他 (33) [↑ 2]	(合計 549)	(合計 769)
(合計 418)		

※[ ]内は前回との比較を表す。↑は増加したもの、↓は減少したもの、数値は増減の件数である。

### 2 前回との比較増減

全体の報告数は418件であり、24%(131件)の減となった。

増加した疾病	減少した疾病
手足口病 18%	RSウイルス感染症 83%
	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎 26%
	感染性胃腸炎 9%

### 3 コメント

- ・新型コロナウイルス感染症は、11月初旬から右肩上がりで見られる感染者の増加がみられ、年末年始が明け感染者数が過去最高となるなど、依然として医療機関への負荷が非常に高く予断を許さない状況が続いています。  
引き続き人との距離が確保できない場面でのマスク着用、密を避ける、空気の流れを意識した換気、徹底した消毒やワクチン接種などを行い感染防止対策の強化を図るとともに、感染に備えてあらかじめ市販の解熱剤や抗原定性検査キットなどをご準備ください。  
少しでも体調が悪いときは休暇を取り、ご自身の重症化リスクや症状に応じて自己検査や医療機関を受診してください。
- ・お子さまの新型コロナウイルスワクチン接種については有効性と安全性にかかる国内のデータが集積され、日本小児科学会は発症予防、重症化予防等のメリットが副反応等のデメリットを大きく上回ると判断し、ワクチン接種を推奨しています。  
大切なお子さまの命と健康を守るため、ワクチン接種のご検討をお願いします。
- ・県内全域でインフルエンザが流行期入りしました。新型コロナと同様に、手洗いやマスク着用などの感染防止対策を行うなど、注意が必要です。